



栗原 実 町長

2020年の抱負

2020年はオリンピックという日本にとって2回目の世界的事業があります。無事に成功して欲しいと願っています。また、衆議院選挙の可能性や町長の任期満了の年でもあります。町の事業なども計画的に進めるものや、突発的に起こることもあろうかと思いますが、適切に舵取りをしていきたいと考えています。

一言で言えば、幸運であったということだと思います。近隣市町でも被害があったなか、堤防が切れなかったという点、これに尽きます。約2億円をかけて町内に無償貸与を行った防災ラジオ、各地で、屋外に設置されたスピーカーからの情報が聞き取れないという現実の中、数年待てば更によいものが出てきたのかもしれないですが、いつ

栗原町長

10月の台風19号では、避難指示の早さや、それを伝えるための「防災ラジオ」は本当によかったと思います。それでも見つかった課題などもあるかと思えます。対策を含めお聞かせください。

小久貫編集委員



台風19号の課題と今後の対策は

災害が起こるか分からないことを考えると、今の導入でよかったと考えています。

町内の避難所に避難した人が、約4,000人です。人口約1万4,500人の町で、4,000人の避難ということとは、あとの人はどうしたのでしょうか。広域避難した人、自分の家が高台にあり自宅に留まることが安全だと判断した人もいます。それを差し引いたとしても、かなり多くの人が避難をしないことを選んだということです。防災ラジオを毎戸に配布しても、放送を聞き入れてもらえなければ、どうにもなりません。万が一堤防が切れていたとしたら、多くの被災者が出たのではないかと危惧されます。避難所にも課題があります。町にはそもそも町民全員を収容できるだけの避難所がありません。できる限り親戚や知人を頼って、また安全なうちに避難行動を取るようになっています。避難所は決して快適な場所ではありません。むしろ不自由な場所です。

今回赤ちゃん連れや、ペットの問題などが配慮されたのかといった質問もありました。備蓄品もすべての人に行き渡るほどは基本的に用意していません。いつ起こるか分からない災害に、全町民が数週間過ごせる程の水や食料を用意しておくというのは、消費期限などもあり難しいことです。そして実際に堤防が切れたとしたら、数週間もの間、にわかにならざるにコミュニティーで、プライバシーのない中で衣食住が続くことになります。災害対策は、毎回反省点が出るものだと思います。今回アンケートを行うよう職員に指示しましたが、町民の皆様だけでなく、避難所開設をした役場職員や消防関係者、区長さんなど多くのかたにもお願いしています。今回を教訓として不測の事態に備えたいと考えます。避難指示を毎年出していれば、「また今回も大丈夫だろう」ということになりかねませんが、どうか役場を信じていただき、十分な準備をして逃げていただければと思います。

2020 新春座談会



町民の皆様、あけましておめでとうございます。

栗原町長、延山議長、鈴木教育長と4人の広報編集委員で行われた「2020年新春座談会」の様をお知らせします。



栗原 悦子 委員

増田 晴彦 委員長

延山 宗一 議長

栗原 実 町長

鈴木 優 教育長

小久貫 紋子 委員

小林 登 委員



延山 宗一 議長

2020年の抱負

板倉町で取り組んでいるものとして、子育て支援などさまざまなものがありますが、町の人達が何を求めているかを捉えて、安心して暮らしていただけるよう議会としても「備えあれば憂いなし」といえるような対応をしていきたいと考えています。

小久貫編集委員

災害対策に関して、議会としてはいかがでしょうか。

延山宗一議長

板倉町は昔から低い場所
で、水に苦しめられてきました。しかし、今回の台風では幸い最小限の被害で済みましたが、安全だと考えていた、太田市、大泉町、佐野市などで浸水が起こってしまいました。まさに想定外の出来

事が次々と起こっています。

防災ではいま、行政に助けをもらう「公助」ばかりではなく、「自助」「共助」という考え方が重要になってきたのかなと思います。まずは自らを守る自助。自分の命を守るための行動です。次に共助、隣近所に声をかけ、ともに助かるための行動です。訓練においても、訓練は本番のように、本番は訓練のように行うこととよくいわれま

すが、今回のことで、細かい点も見えてきたのではないかと思います。いろいろな難しさもあると思いますが、

次の訓練の際には、避難先での衣食住のことまで考えた行動をしなければならぬことを、避難する人達も理解できたのではないのでしょうか。どこに避難することがよいのか、他人任せにするのではなく、自己責任として、改めて考える時が来たといえます。

議員活動の魅力とは

延山宗一議長



地方議員はなり手不足といわれていますが、町の議員として、活動する魅力というのはどういふ所にあるのか教えてください。

小林編集委員

議員の仕事は、町の行財政を監視するとともに意思決定機関です。行政を執行するのは町長ですが、同じ選挙で選ばれたものとして、議員は町に提言するだけではなく、町民にとって何が必要なのかを見極め、要望を反映させていく重要な役割を持っています。町民の安全で安心できるまちづくりを実現できるよう、町長の執行する行政を正しく見守り監視していきます。町議員はなり手不足といわれています。その要因として

現在の議員報酬だけでは、生活できないという現実があります。ほかの職を持つていないと、なかなか活動も難しいものだと思います。しかし、町民のために、皆さんの声を聞き、少しでもその力になりたいと考えています。それがやりがいと思っています。

議会では年一回は議会報告会を行っています。なかなか聞きに来てくれるかたは多くありません。私たちの活動を知っていただくためにも、ぜひ足を運んでいただきたいところです。

小学校再編と南北小学校の利活用



栗原編集委員

いよいよ小学校の再編が読みとらえて来ました。現在の状況はどうでしょうか。
また、閉校後の校舎の利活用について、アンケートがありました。方向性などは見えてきたのでしょうか。

鈴木優教育長

11月には、北小学校、南小学校とも閉校行事を済ませることができました。たくさんのかたが見えた中、閉校せず今のままでよいというOBや保護者のかたもいらつしやいます。しかし、将来的に社会性、競争心を養うためにも再編はやはり必要であると考えます。

検討委員会からの報告も、

可及的速やかに再編を進める必要があるという答申がありました。

再編の話が出てから、7年の歳月が経っています。この間、学校の先生、PTA役員などで細かい点を詰めていき、4月から無事スタートできる見込みとなりました。スクールバスの乗降訓練も行っており、万全の体制ができてきたと考えています。これまでの経緯などは、町ホームページに掲載されていますので、そちらを確認していただけたらと思います。

栗原実町長

跡地利用に関するアンケートは、現在まだ集計中でです。皆さんに見せられるまでにはなっていないと思います。しかし、アンケートを見ますと、現状のまま避難所として使うのがよいのではないかという意見が多く見られるようです。ほかにも公民館や図書館、保育園など、多くの意見が寄せられています。今の保育園が築年数も経過

して、古くなっていることもあり、板倉町の将来を考えると、公立保育園を一園にする必要があるかもしれません。保育士一人当たりの受け持てる子どもの数などにも決まりがあり、人件費などの面ではその方が効率的であるといえます。

財政面を考えなければ、ほかにもいろいろなアイデアがあると思うのですが、すでに竣工から37年も経過している建物です。補強なども考えなければなりません。

避難所として活用するとしても、電気、水道、雨漏り対策など、いざというときに使えるよう維持していかなければなりません。少しいじっただけで、数億円かかるかもしれません。かといって解体するには、更に多大な費用がかかります。

いづれにしても、地域の要望にも応えていきたいと思いますが、なるべく公平に、投資も少なく済み、しかも有効に使えるよう考えていきたいところです。



鈴木 優 教育長

2020年の抱負

2020年に成し遂げなくてはならないのは、なんといっても小学校再編です。ぜひこれを成功させたいと考えています。個人的にもけじめを付けた生活と、やるときはやるという精神をアピールしていきたいと考えています。再編してよかったといってもらえるような一年にしたいと思います。

第一次中期計画の成果と第二次中期計画の展望は



小久貴編集委員

本年度は第一次中期事業推進計画の最終年度ですが、どのくらい達成されているのでしょうか。また、次の事業計画では、どのような事業が行われるのでしょうか。

栗原実町長

第一次中期事業推進計画については、80%達成できていると思っています。しかし、取り組んでも取り組んでも、成果の出しづらさというものがありません。事業の途中で新たな課題が出てくることもあり、そういう問題のほうが多いと感じます。

今の板倉町で、最も達成す

るのが難しいものとして、

ニュータウン事業があります。この難しさを痛感しています。幸い企業誘致を行ったエリアについては、ほぼ売り切れるというところまで来ましたが、まだ、住宅用地としてたくさん土地が、そのままの状態になっています。これからニュータウン事業は進めなければならぬ、重要な施策です。

次の第二次中期事業推進計画では、6つの大きな施策を柱に据えて、計画していきます。

例えば「安全安心のまちづくり」という大きな柱の中には、細分化した施策として、台風に対する対策だけでなく、交通対策や防犯対策などといった項目を設けて計画していくこととなります。

中期計画というと、通常5年という期間が一般的かと思われるかもしれませんが、町長の任期は一期4年です。そのため、自分の任期で責任を持って進められるよう、計画期間を4年としています。



これからの板倉町に必要なことは

ら、施策の優先順位を考えながら、前を向いていきたいと思えます。派手さを求めるより、着実な政策を行っていく必要があると考えています。

延山宗一議長

少子高齢化は今や避けて通ることのできない問題です。この問題に対処するにはさまざまな視点から対応することが必要であると思います。国では、高齢化対策として働き方改革を推進し、高齢者の就業機会拡大を図っています。これからの板倉町は、高齢者がいつまでも元気に働けるように、健康寿命を延ばすための取り組みが重要であると思います。議会も、町とともに高齢者が元気に働けるまちづくりに取り組みたいと考えています。

鈴木優教育長

4月からスクールバスが4台動きます。今後は再編の成果を見ながら、次のステップである小中一貫教育校を視野に入れ、研究していく必要が

あります。教育の現場でも、タブレットを用いた教育が予想されます。一人一台持たせて教育をしていくというのは大変なコストがかかります。支援があるといっても簡単にはいきません。実現するのは何年先か分かりませんが、小中連携と併せて今から研究していきたいと思えます。

「2020年新春座談会」はいかがでしたか。今、まちづくりに関心の高い内容について、栗原町長、延山議長、鈴木教育長の3人へインタビューを行いました。

本年が町民の皆様にとって良い年となりますようご祈念申し上げまして、結びとさせていただきます。

板倉町広報編集委員会一同



増田編集委員長

それでは最後に、これからの板倉町に、どのようなことが必要となってくるとお考えなのかをお聞かせください。

栗原実町長

板倉町は、県内でも少子高齢化率の高い町です。出生数が少なく、転出者も多い。板倉町を選んでもらえるよう、小中学校の給食費無料化、出生時と小学校入学時には子育て支援金事業、0歳児おむつ券給付事業など、子育てしやすい環境づくりをしています。人口の自然減が激しく、人口を一気に増やすことは難しいことですが、企業の誘致などによる収入増を図りなが

